ツールの名称	Cx 共通形式データ抽出・集計ツール（CFCT_calc）
開発者の氏名	藤村昌弘
開発者の所属	株式会社アレフネット
ターゲットとする機器/システム	BEMS データ等の大量の CSV データを Cx 共通形式に変換したデータ
ツールの分類	測定、情報/データ、データ処理/表示、モデル、シミュレーション

ツール開発の背景・目的

空気調和・衛生工学会コミッショニング委員会・データマネジメント手法検討小委員会（2014 年～2016 年度）で、多くのデータ収集装置の出力ファイルを調査し、標準的なファイル書式とその保持方法のあり方について検討を行い、「Cx 共通形式」（案、2016 年 5 月 25 日現在）を定め、この形式に変換するツール（Cx 共通形式変換ツール）を開発した。さらに、Cx 共通形式に変換されたデータ群を分析に活用するためのツールの一例として、必要なポイントを抽出し、分析用のデータセットファイルを作成するツールを開発した。

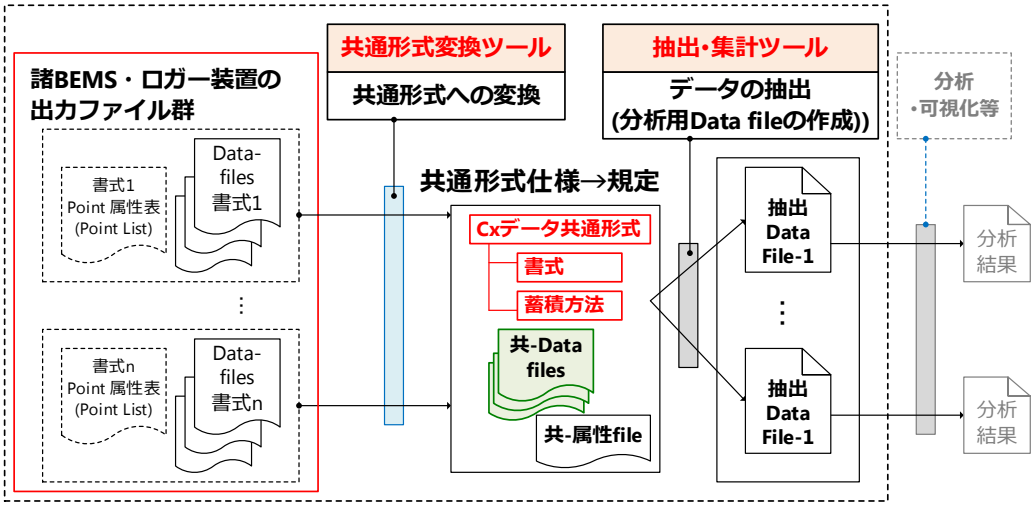

図　データ処理フロー

ツールの機能

空気調和・衛生工学会コミッショニング委員会・データマネジメント手法検討小委員会（2014 年～2016 年度）で定めた「Cx 共通形式」に変換されたデータ群に対して、データ期間、データ間隔、測定ポイント、集計方法を設定して分析用データを出力する機能を有する。

Cx プロセスの中でのツールの位置づけ，使われ方

共通形式化されたデータ群から、分析に必要なポイントを抽出するために使用する。

Cx プロセスにおけるユーザ（誰が使い，誰に結果を渡すか）

CxTE などデータ分析業務を担う技術者が主に使用する。

Cx プロセスにおけるツール適用のメリット

データ分析の作業時間を大幅に短縮することができる。

実行環境

本ソフトウェアの開発・テスト環境の仕様を以下に示す。ただし、これ以上の環境であっても動作を保証するものではない。また、これ以下の環境であっても動作することもある。

OS:Windows 7 SP1 64bit、CPU:i5-4300U、メモリ:8GB、HDD:200GB

操作性，ユーザインターフェイス

ツールマニュアル参照。

必要なデータの形式，管理方法

ツールマニュアル参照。

ツールの検証，ケーススタディ

SHASE・Cx データマネジメント小委員会委員で諸物件の BEMS・データロガー装置の生データを使って試行・検証した。